26th 新響

新交響楽団
第26回定期演奏会



THE NEW SYMPHONY ORCHESTRA
26th Subscription Concert

新交響楽団第26回定期演奏会

1973年11月5日（月）午後7時
勤労青少年会館サンプラザホール

指揮　芥川也寸志
Conductor　Yasushi Akutagawa

ピアノ演奏　小栗豊
Piano Solo　Yutaka Oguri

I　交響曲第4番　イ長調「イタリア」作品90 ……フェリックス　メンデルスゾーン＝バルトルディ
Symphony No. 4　Amajor "Italienische" Op. 90……Felix Mendelssohn-Bartholdy

第1楽章　アレグロ　ヴィヴァーチェ
1st mov.　Allegro Vivace

第2楽章　アンダンテ　コン　モート
2nd mov.　Andante con moto

第3楽章　コン　モート　モデラート
3rd mov.　Con moto moderato

第4楽章　プレスト
4th mov. Presto

II　ピアノ協奏曲　第26番　ニ長調「戴冠式」K.V.537……ヴォルフガング　アマデウス　モーツァルト
Piano Concerto No. 26 Dmajor "Coronation" K.V.537…Wolfgang Amadeus Mozart

第1楽章　アレグロ　（独奏者自作カデンツァ使用）
1st mov.　Allegro　(Original cadenza by the Solist)

第2楽章　ラルゲット
2nd. mov.　Larghetto

第3楽章　アレグレット
3rd mov.　Allegretto

III　舞踊組曲「火の鳥」（1919年版）……イゴール　ストラビンスキー
Suite from "L'oiseau de feu" (1919)……Igor Stravinsky

前奏曲――火の鳥とその踊り――火の鳥のヴァリエーション
Introduction――L'oiseau de feu et sa danse――Variation de L'oiseau de feu
――王女たちのロンド
――Ronde des princesses
――魔王カスチェイの兇悪な踊り
――Danse infernale du roi Kastcheï
――子守唄――フィナーレ
――Berceuse――Finale



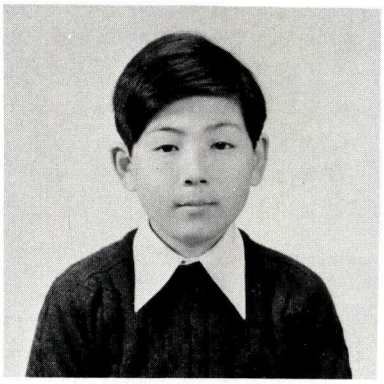
——音楽監督・常任指揮者——

芥川　也寸志

Yasushi Akutagawa

1925年生東京生れ。
1949年　東京音楽学校研究科作曲部を卒業。
作品——交響三章，トリプティク，交響曲第一番，エローラ交響曲，オスティナート・シンフォニコ，チェロ協奏曲，オーケストラのためのラプソディ。
1956年新響発足以来の常任指揮者であり，1969年音楽監督就任。昨年秋の内部改革によって理想のアマチュアオーケストラ創りに一歩を踏み出した。

プログラム末尾の維持会員制度も氏の発議によるもので，技術面，運営面での指導力は団員の大きな信頼を得ている。



——ピアノ独奏——

小　栗　　豊

Yutaka　Oguri

1960年９月生れ。
小学校１年よりヤマハ音楽教室。
３年の時より坂弘子氏にピアノを学ぶ。
1970年　第７回ヤマハエレクトーンコンクール
ジュニアの部全国１位
1972年　第１回ヤマハオリジナルコンサート
作曲部門優秀賞
現在，兵庫県伊丹市立南中学１年生。
電機会社に勤めるお父様と琴をひくお母様の末っ子。
お兄様はギター，お姉様はピアノを少々という。
趣味は，音楽のほか，汽車，電車，絵を描くこと，水泳。
学校ではクラスの人気者で友達も沢山いる。
何でも引き受けてきてお母様を困らせるそうな。
でも学校も忙がしくあまり遊ぶ時間はないと言う。

推薦のことば　将来作曲家になりたいという小栗豊君は，才能豊で音楽性にあふれた子供です。彼より上手にピアノを弾く子供は沢山おりますが，得意とする即興演奏では彼の右に出るものはおりますまい。

今晩の演奏も平素聞きなれたモーツァルトというより，彼自身の弾きたいものをモーツァルトに託した，というような演奏になると思いますが、この子供がどのような音楽を創り出すか……そんな耳で聴いて頂きたく存じます。

——坂　弘子

曲目解説

交響曲第4番イ長調　〝イタリア〟　メンデルスゾーン

メンデルスゾーンがローマの街で，この街にはありふれた風物―瓦れきを積上げたような古代ローマの遺跡，辺りをキョロキョロ見廻しながら通りをねり歩く巡礼の行列，石畳みにガタゴト音を立てる貴婦人の馬車―を横目で見ながら街をかっ歩して過したのはまだ20才を少し過ぎた頃ですが，この頃には既に〝イタリア交響曲〟の構想がまとまっていました。メンデルスゾーンの早熟さはモーツァルトと比較された程で，第1交響曲は15才の時に書上げており，又〝イタリア〟と同時に第3交響曲となった〝スコットランド〟の作曲も始めておりました。

ベルリンの音楽大学の教授就任の依頼まで断ってイタリアに赴いたメンデルスゾーンはその途中でゲーテとも会っていますが，特に興味深いのはローマでのベルリオーズとの出会いです。ベルリオーズはパリの音楽院でやっとの思いで作曲の一等賞をとり，その特典によって当時ローマに留学していたのですが，そこで彼の方は大作〝幻想交響曲〟の作曲を進めていたのです。

やがて知り合った2人はお互いの野心作〝イタリア〟と〝幻想〟の草稿を見せ合いますが，この時の2人の反応は，ベルリオーズがメンデルスゾーンの早熟さにすっかり驚嘆したのに対し，メンデルスゾーンは〝幻想〟のスコアに対し「この作品は余り演奏効果が上らないだろう」と冷やかな批評をしたと伝えられます。しかしこの表現はまだ控え目な方で，彼が母へ送った手紙には「ベルリオーズ君にはとても我慢がなりません。彼はフランス人ですからやっと我慢しているのですが」と書いているくらいで，当時彼はベルリオーズに対して何か不気味な虫の好かない感情を抱いていたようです。

しかし歴史は皮肉屋ですから，幻想交響曲に対してメンデルスゾーンが与えたと同じ評価はしていないでしょう。幻想交響曲の音楽史上の意義は或いはメンデルスゾーンの全部の交響曲を合せたよりも高い位かもしれません。しかし〝幻想〟は19世紀前半の音楽中の狂い咲きのような大作ですから，この作品と比べられるのは割に合わない話で，イタリア交響曲の方も素晴しい傑作であることに間違いはありません。

メンデルスゾーンの天才は言わば才気の極限と言ったものでしょう。又作風は一種の気品をもっており，恐らく人柄もそうだったでしょうが，一方のベルリオーズは特異な感覚を持っていた一方でその作風にはややえげつない所が無くもありません。この様な2人の関係では，メンデルスゾーンの方は相手に何かしら見下げた気持を感じ，逆にベルリオーズの方は（本当は彼の方が一層天才であったにも拘らず）メンデルスゾーンに一種のコンプレックスを感じていたというのは分らないことではありません。

ともあれ，イタリア交響曲は約1年間の当地滞在の間にほとんど完成しそうになりながら一旦作曲が中絶され，1年余り後に再開されて1833年ロンドンで完成し初演されました。初演の評判は悪くなかったようですが，初版には後にメンデルスゾーン自身により改稿が加えられています。

第一楽章は速い6/8拍子で書かれているのが特徴で伸びやかな旋律と躍動する快よいリズムによる楽章です。特にレッジェロに奏される弦の効果の素晴しさはメンデルスゾーンの作品中でも出色のものでしょう。

新響・団員募集中！　（特にフルート首席奏者を求む）

入団希望者に対しては原則として、月の最終日曜日の午後、オーディションを行ない、新響のレベル、パート人員の必要度、本人の環境、入団意志などを考慮して決定します。
オーディションでは、課題曲（下記）、自由曲、初見のアンサンブル曲を演奏していただきます。

〔課題曲〕

Vn	モーツァルト	協奏曲第5第1楽章
Vla	エックレス	ソナタ　第2楽章
Vc	ヴィヴァルディ	ソナタ第5第2楽章
Cb	カプッツイ	協奏曲　第1楽章
Fl	モーツァルト	協奏曲ニ長第1楽章
Ob	ヘンデル	ソナタ第1第1楽章
Cl	ウェーバー	小協奏曲　第1楽章
Fg	モーツァルト	協奏曲　第1楽章
Hr	モーツァルト	協奏曲第3第1楽章
Tp	ハイドン	協奏曲　第2楽章
Tb	R.コルサコフ	協奏曲第1,2楽章
Tub	ワーグナー	マイスタージンガー

（楽譜のない方はコピーをお貸します）

〔オーディション日程〕
11月25日(日)　午後1時
（12月はお休み）
1月27日(日)　午後1時

〔問合せ先〕
① 団員をご存知の方は団員を通して。
② それ以外の方は人事担当の橋谷幸男まで。
自宅332-4075，会社563-4451内292（キグナス石油営業計画課）

〔申込先・オーディション場所〕
〒160 新宿区須賀町14 大湊ビル　新交響楽団 TEL 357-5255
国電信濃町と地下鉄四谷三丁目の丁度中間、どちらからも徒歩6分、2つ目の信号、八百屋裏CPA学院のビル4F

第二楽章はカンツォネッタ風の甘いメロディーが主役ですが常に対旋律を伴っていて単なるメロディー楽章ではありません。メンデルスゾーンの作品の縮図であるような彼の〝無言歌集〟には「ヴェニスの舟歌」が3曲も入っていますが，甘く哀しいメロディーへの嗜好も作曲者の一面であると言えるでしょう。

第三楽章は中間部をもった3/4拍子の曲で一種のスケルツォだとする見方もありますが諧謔よりも牧歌的気分に満ちています。緊張の解かれた穏やかな気分の楽章です。

第四楽章は南欧のリズムであるサルタレッロの表示をもっており，早い3連音のリズムが楽章全体にリズム感と緊迫感をもたらしています。メンデルスゾーン自身はこの楽章に最も力を入れたと言っており，彼の才気とセンスの粋が示されています。

ピアノ協奏曲ニ長調　K537「戴冠式」　モーツァルト

モーツァルトの第26番のピアノ協奏曲ニ長調はオーストリアの新しい皇帝の即位の直後に初演されたことから「戴冠式」の名で呼ばれるようになりました。モーツァルト32才の時の作品で，もう彼としては晩年にあたり傑作が次々に書上げられていた年代です。

4分の4拍子の明るい旋律をもった幾分シンフォニックな第一楽章に始まり，第二楽章の喜こばしい気分をもち美しいメロディーのラルゲットに受けつがれます。そして終楽章も軽快なテーマをもったロンドで，全曲を通して楽しい気分が支配的です。モーツァルトのこうした協奏曲はいとも流麗な流れをもっているので，聴衆をいつの間にか音楽の快よい流れに引込んでしまうでしょう。

モーツァルトはバッハ及びベートーヴェンと共に一きわ抜ん出た大作曲家であると考えられますが，彼らが特に偉大である理由は二つしかないでしょう。一つは優れた作品の数が特別に多いことであり，もう一つはその音楽的境地が極めて深いことです。小さな池より広大な湖の方が底も深いように第二の理由は半ば自然なことですが，大きければ大きい程深いというわけではない様に，この二つはやはり別々の要素です。

モーツァルトの作品にはこの3人の内では明るく親しみ易い作品が多いでしょう。しかし作品の真価を理解するのは最も難かしいとされています。例えばこの協奏曲の冒頭のように最も優れた要素が旋律そのものであるのに，それが極めて平易な形をしていたりするのも理由の一つでしょう。又，彼は大胆な手法を用いてもそれが作品の所々に小さく散ばっていることが多いのです。例えば彼の作品は和声的な面からは大部分の箇所において〝非常に平凡〟である場合でも或る所で（「天災」のように忘れた頃に）突然〝鬼気せまる〟転調を行うようなことがしばしばあります。

モーツァルトに関して特に驚くことは彼の作曲態度の〝何げなさ〟でしょう。ベートーヴェンはもとよりバッハの多くの作品にも（より小規模にではあっても）自分の過去の作品と色合いの違ったものを作りたいという意欲が窺えますが，モーツァルトの作風は恰かもその様な事を頓着していないかのようです。例えば50曲程もある各種協奏曲の中から，テュッティが主和音で始まるテーマを

新響維持会員募集中!!

音楽を愛する大勢の方々の支持のもとに演奏活動が行なわれることがこれからのオーケストラ活動のあり方と信じ、維持会員制度を発足させました。◆年額1口(1200円)以上、◆今後1年間ご案内をさしあげる演奏会に自由にご入場なれます。　◆定期演奏会プログラムにご芳名を掲載します。◆ご入場の方にはプログラム贈呈。◆その他新響の全ての演奏会入場券が優先的に割引で購入できます。◆住所・氏名・年令・職業明記の上現金書留で下記迄。　(維持会員申込と付記)

〒160 新宿区須賀町14大湊ビル 郵便振替口座 東京177071

新交響楽団　357-5255

新響登録会員募集中!!

◆入会金はいりません。
◆演奏会の案内を毎回お送りします。
◆入場券は1割引といたします。
◆プログラムを無料でさしあげます。
◆申込はハガキにて、住所(TEL)、氏名、年令、職業明記の上、下記事務所まで。

〔オーケストラの名曲800選〕リスト頒賦中

音楽鑑賞、レコード蒐集の手引に、古今の無数の管弦楽曲の中から800曲を選び、索引、演奏時間を付記。申込は左記事務所迄。140円(20円切手可)

曲目解説

一くさり弾き終る前に，独奏楽器が演奏を受持たされる作品を捜し出すのは非常に骨が折れるでしょう。

我々から見れば真の創造的天才の態度としては他の2人の場合の方が自然であって，モーツァルトの態度はむしろ不自然のようにさえ感じられます。モーツァルトが35年の生涯の間に非常に膨大な数の作品を残せたのは，作曲の筆が非常に速かったからですが，反面ベートーヴェンが行ったような作曲の推敲の深甚な努力は欠いており，今日では演奏されなくなった作品も少なくないでしょう又，彼の新しい試みは即興的であるが故にかえって暗示的な印象を与えるかもしれません。

子供の頃から非常に成熟した作品を書いた彼が「戴冠式」のような晩年の作品まで作風を根本的に変えようとする努力がされなかった事は確かに不思議ですが理由が無いわけでもないでしょう。それはモーツァルトはそれでも充分に孤高の存在で居られたからではないでしょうか。もしもベートーヴェンがもう10年早く生れてライバルになっていたらモーツァルトの作風も変っていたかもしれないと惜まれますが，それもあくまで仮定の話でしかありません。

バレー組曲　「火の鳥」　　ストラヴィンスキー

バレー音楽「火の鳥」の背景はロシアの美しい民話です。

『ある夜森をさまよい歩いていた王子イワンは夢の中にでも現われそうな美しい鳥を見つけ，その鳥をどうしても捕えたくなって森の中をどこまでも追いかけてゆきます。王子はとうとう金色のリンゴのなる樹のもとでこの鳥を捕らえますが，鳥からどうしても逃がして欲しいと哀願され，王子も哀れに思って放してやると，鳥はお礼にと自分の羽を1枚抜くと王子に渡して飛び去ります。(「序奏」と「火の鳥の変奏曲」)

いつの間にか森深く入り込んでいた王子はふと見上げると森の向うに古い城が見えることに気づきます。すると城から13人の乙女達が現れて金色のリンゴの樹の囲りでたわむれ始めます。(「王女たちのロンド」)

しかし夜がすっかり明けてみるとこの城は凶悪な魔王カスチェイの城であることが分かりました。乙女達は実はこの魔王に囚われている身なのです。王子は乙女達の中の美しい王女を恋してしまったので，単身城へ乗込みますが，魔王の手下供に捕えられ，あわや魔法をかけられそうになった時あの貰った羽をとり出すと，何処からか火の鳥が飛んで来て舞を舞い始めます。これに魅せられた魔王達も踊り出し，ついには疲れ果てて眠り込んでしまいます。(「魔王カスチェイの凶悪な踊り」と「子守歌」)

その際に王子が火の鳥に教えられてカスチェイの命の卵を割ると魔法は消え失せ，乙女達は救われ，王子は美しい王女とめでたく結ばれるのです。(「終曲」)』

火の鳥の物語は我国の民話では舞台やオペラで「夕鶴」として知られている「鶴の恩返し」の物語を思い出させる幻想的な民話です。やはりどちらも鳥の羽の美しさに対する人間の讃美の気持が物語の根底となっているのでしょう。

1910年まだ無名の青年だったストラヴィンスキーはロシア・バレー団の主宰者ディアギレフの依頼により「火の鳥」の民話を背景にバレー曲を書上げ一躍ヨーロッパ中に名を知られるようになりました。そしてこのディア

新響第九特別演奏会

日　時　12月19日(水)・21日(金)　両日共　午後7時開演
会　場　サンプラザ ホール（国電中央線中野駅北口前）
曲　目　楽劇「トリスタンとイゾルデ」より「前奏曲と愛の死」……ワーグナー
　　交響曲第9番　二短調「合唱付」……ベートーヴェン
指　揮　芥川也寸志
独　唱　Sop. 常森寿子(19日)
　　〃　小池容子(21日)　Alt. 秋葉京子　Ten. 金谷良三　Bar. 平野忠彦
合　唱　合唱団〝鯨〟ノインテコール　武蔵野合唱団　独協大学合唱団
入場料　S:1000円　A:700円　B:500円　C:300円（全席指定）

曲目解説

ギレフこそ（彼自身音楽家でなかったにも拘らず）音楽史上にそのけい眼をうたわれた傑物だったのです。ストラヴィンスキーの3つのバレー曲を始めラヴェルの「ダフニスとクロエ」など20世紀の音楽の中でも屈指の名曲がディアギレフのロシア・バレー団のために次々と生み出されてゆきました。
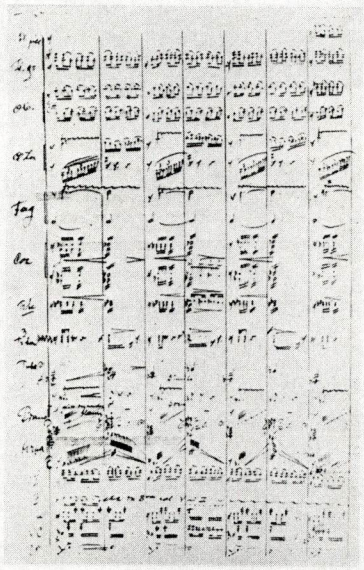
過去にはブラームスやショパンの才能をいち早く世間に知らせようとしたシューマンの様な人もおりましたが，天才が天才自身によっても才能を見過された例は音楽史上に幾らでも見ることが出来ます。モーツァルトは例の通りベートーヴェンの真価を知ること無く他界しましたし，ベートーヴェン自身も，死の床でシューベルトの歌曲を読んだ時には『まことシューベルトは天上の火花によって生かされている』とまで讃嘆しましたが，それより5年前にシューベルトが始めて4手のためのピアノ曲を献呈した時には特に大きな反応を示しませんでした。「花火」その他の作品を1度聴いただけでストラヴィンスキーに何かの霊感を感じたディアギレフはやはり相当な人物だったに違いありません。

「火の鳥」の様な作品が突然無名の青年によって書上げられた事は音楽史上の真の驚異です。作品のあらゆる部分が曾って無かった新しい感覚に溢れていますが，それを別にしてオーケストレーションだけを取って見てもその素晴しさは一口に言えない程です。

この曲の初演はロシア・バレー団のプログラムとしてパリで行なわれ大好評を博しましたが,この曲がストラヴィンスキーが従来の音楽に悪魔的な変革を加え，20世紀のあらゆる作曲家に衝撃と影響を与える先駆けとなった曲である事を考えると，好評で迎えられたのはむしろ意外な位です。

しかし，巧みなオーケストレーションと美しい民話の衣に騙されて拍手を送った聴衆（ドビュッシーとラベルを含む聴衆）は次の「ペトルーシュカ」では作曲者の〝力量〟に感心しながらも何か不吉な予感を感じ，そして第3作「春の祭典」ではついに本性を現わした魔物の正体を見て愕然とさせられることになるのです。

（Vla 菱沼佳史）

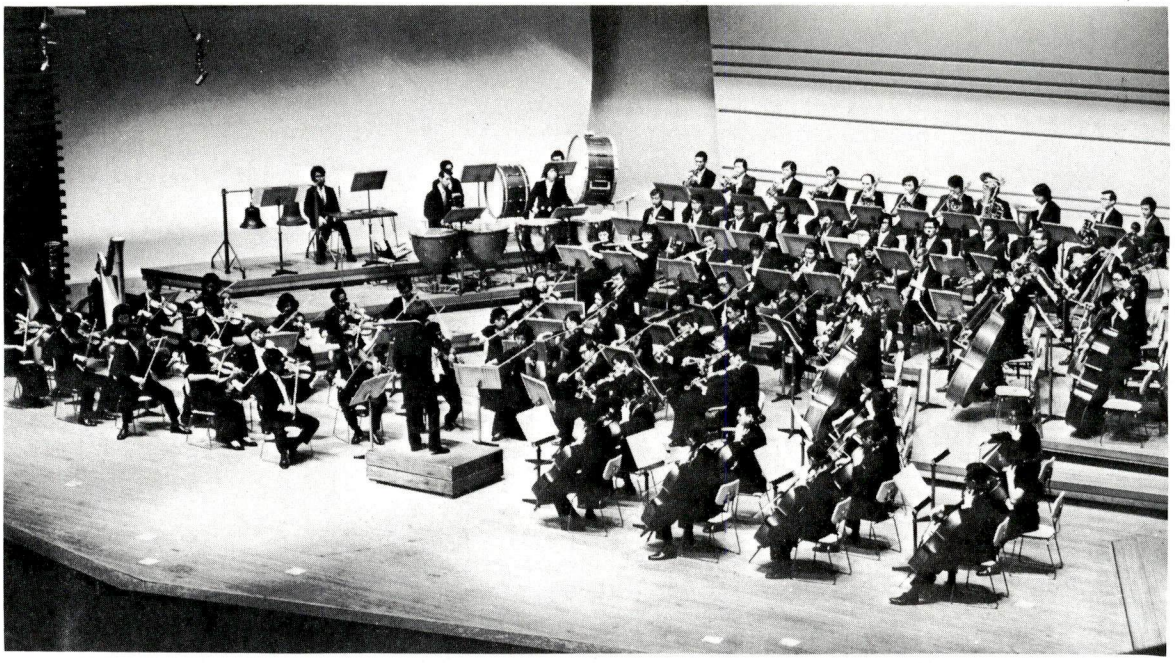


組曲《火の鳥》のスコア
（コンセルヴァトワール図書館）

新響第27回定期演奏会

日　時　　1973年3月31日(日)　午後6時半開演
会　場　　東京文化会館大ホール
曲　目　　未　定（ポピュラーな名曲コンサートを予定）

指　揮　　芥井也寸志
入場料　　S:700円　A:500円　B:300円（全席指定）



新交響楽団

新交響楽団，新響は名前こそN響の前身と同じですが純然たるアマチュアのオーケストラで，名簿に見るように，サラリーマン，学生，主婦など，音楽を職業としない120名の団員から構成されています。

週1回土曜日，東京文化会館地下のリハーサル室での練習を基礎として，月々500円の団費と，演奏会の収入による独立採算で運営されています。

昭和31年創立以来の常任指揮者芥川也寸志氏の献身的指導によって，現在日本で望み得る最高レベルのアマチュアオーケストラとされており，42年秋の訪ソ旅行，44年秋の沖縄九州旅行という華やかな活動がある反面，週1回2時間半の練習，実質的には何の拘束もない任意団体であるという絶対的な制約をうけているため，累積赤字をかかえて常に解散の危機に瀕しているといっても過言ではないでしょう。

新響を存続させるものは，一緒にアンサンブルを創るという一点にしかありません。2～3回の練習で演奏会をもつというプロのオーケストラにはできないような，すみずみまで奏きこんだ演奏をモットーとし，毎週の練習自体をも一つの目的とする緊張と充実が団員の共通の目標となっています。

新響のもう一つの目的は，オーケストラを団員の自己満足としてでなく，できるだけ沢山の人に聴いてもらいたいという演奏団体としての活動です。一昨年から新たに若手指揮者のホープ小林研一郎氏を指揮者として正式にお迎えし，芥川先生とタクトを分担して頂くことにより，外部からの依頼にも応じられる演奏団体としての体制をととのえつつあります。

最近の主な演奏会

1972年

11月12日　第24回定期演奏会　　日比谷公会堂

ファストの劫罰 Op. 24より＝ベルリオーズ，2台のピアノのための協奏曲＝モーツァルト（独奏：池場文美，中井正子）交響曲第7番　イ長調＝ベートーベン

12月17日・19日　第九特別演奏会　　日比谷公会堂

トッカータとフーガニ短調＝バッハ・ストコフスキー　交響曲第9番「合唱付」＝ベートーベン 独唱：常森寿子，志村年子，金谷良三，原田茂生（指揮：小林研一郎）

1973年

3月24日　第25回定期演奏会　　東京文化会館

25日　同上　　神奈川県立音楽堂

＜チャイコフスキーの夕べ＞イタリア奇想曲，ヴァイオリン協奏曲(独奏：徳永二男)，交響曲第6番「悲愴」

4月1日　FM東京用録音　　東京スタジオセンター

イタリア奇想曲，交響曲第6番「悲愴」，アンダンテ・カンタービレ

5月27日　東京六大学合唱連盟定期演奏会賛助出演　　東京文化会館大ホール

歌劇「さまよえるオランダ人」より「水夫の合唱」＝ワーグナー（指揮：小林研一郎）

8月18日　サマーコンサート　　東京文化会館大ホール

交響曲第6番「田園」＝ベートーベン，ピーターと狼＝プロコフィエフ（語り手：浪花千栄子），パリのアメリカ人＝ガーシュウィン

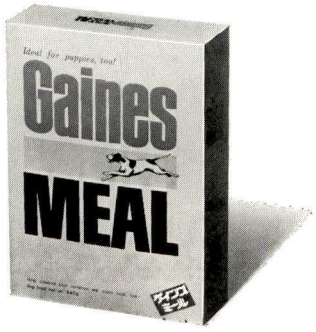
8月25日　アマチュア音楽の祭典出演　　杉並・普門館

スラブ行進曲＝チャイコフスキー，パリのアメリカ人＝ガーシュウィン，合同演奏曲「よろこび」＝石井歓（よろこびのみ指揮春日学）（指揮は特記以外芥川也寸志）

ゼネラル フーヅ株式会社



暑いね、パティ。これ貸してあげるよ。
お陽さまに当たると疲れるもんね！



彼のパティは暑さが苦手。私たちと同じです。強い直射日光は、マイドッグをとても疲れさせてしまいます。少年の気持が、ゲインズにはよくわかります。ほんとうにイヌを愛しているからです。マイドッグの健康のためにつくられた《ゲインズ・ミール》は、イヌに欠かせない25の栄養分を配合。アメリカ科学アカデミーの基準にしたがった理想的なフードです。この暑い陽ざしのなかで、一本のパラソルになれたら…ゲインズはいつもそう願っています。



ほんとうのやさしさが生きています。

Gaines MEAL ゲインズ・ミール

ゲインズ製品は世界17ヵ国の愛犬家から最も信頼されています。

マイドッグの年令・体重に合わせてお選びください。

840g・270円/2kg・580円/4kg・1,080円/10kg・2,300円/20kg・4,200円

●お近くの有名ペットショップ、スーパー、デパートでお買い求め下さい。

●パンフレット「マイドッグの正しい食事」をさしあげます。ハガキに氏名・住所・年齢・職業をご記入のうえ、右記あて、お申し込みください。〒160 東京都新宿区本塩町8住友生命四谷ビルゼネラルフーヅ株式会社ゲインズ・ミール「新響」係